



法人税減税の財源は論議しないのに

妻の年収が一〇三万を超えると配偶者控除の対象から外れ、夫の所得税が急増する。妻がもっと働きたくてもためらってしまう。雇う側は賃金を引き上げない口実にする。

だが、法人税の減税の時、政府は財源を論議したのだろうか？

シジ通信二二五号、五一号などで指摘したように、法人税減税や金持ちの最高税率引き下げの時、代替財源の議論は全くしていない。それは「福祉の為に消費税を」と云いながら、実は法人税減税、金持ち減税の財源に回していたから。

夫婦控除は 対策として配偶者控除を止めて働き方によらない「夫婦控除」が論議された。しかし、見送りの方向との報道。代わりに配偶者控除の対象を一〇三万から引き上げるという。が、所得税の課税最低限の一〇三万は変えないという。

つまり、妻の年収が一〇三万を超えても、夫の配偶者控除は適用するが、妻は新たに所得税を払わなければならない。減税されなくても他方で増税だ。

稲田防衛相は「子ども手当より軍事費を増やせ」と。軍事費は毎年増やされてるが、その財源は論議されない。

軍事費増や、法人税減税は財源を論議せず、庶民向けの減税になると途端に財源を問題にするのが自公政治。皆さんはどう思われますか？

氷川丸の操舵室

横浜市中区山下公園地先



山下公園の前に係留されている氷川丸は一九三〇年竣工。全長一六三m、総トン数一万一千トン余り。

横浜とシアトルの間を約二週間で結び、約三〇〇人の船客を運んだ。

氷川丸は一九六〇年まで就航していた。その操舵室にある計器は驚くほど少ない。前の窓の上にあるのは速度計、左右二基のエンジンの回転計。舵輪の前にジャイロによる方位指示器。その前には磁石の羅針盤。舵輪の左手、大きな淡いグリーン機械はジャイロコンパスだ。GPSは無いから星や太陽の高度で位置を計算。

最近ではモニターボードでもナビがあつて、自船がどこにいるか瞬時に分かる。それに比べて昔の操船は大変だったと思う。

来週は休み予定です

